

遊便

広報誌：「遊便」（第23号）
発行：医療法人 仁風会 八雲病院
発刊日：2022年10月6日

「認知症病棟の看護について」

第Ⅱ病棟 看護主任 今岡ゆかり

今年も猛暑が続き体調を崩された方も多かったのではないかと思います。新型コロナウイルスと共存する生活様式となり、一人ひとりが感染症対策に気をつけながら生活されていると思います。何かと不便が多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々を取り戻せるように心から願っています。

私が勤務する認知症治療病棟は、高齢者の方が多く入院されています。高齢化社会に伴い認知症になる方が増え、自宅では介護することが難しくなり当院に入院されます。また、施設から入院される方もいます。入院により生活環境が変わるため混乱されないように、患者さんに声をかけを頻回に行い安心してもらえるように心がけています。安全に配慮し危険がないように環境を整え、転倒、転落などの事故予防に努めています。また加齢により身体的な衰えとともに多くの方は何らかの合併症をもっておられます。患者さんは認知機能の低下により思いや体の不調を言葉でうまく表現できないことが多く、身体症状が精神症状を悪化させる場合もあります。そのため合併症予防のための健康観察が重要になります。患者さんが安心して入院生活を送れるように、病棟スタッフ一

同、情報を共有しながら看護しています。

新型コロナウイルスが流行してからは、感染対策に気をつけながら面会をして頂いていました。面会は、離れた生活をされているご家族さんと患者さんの大切な時間であると考えます。問診後に、スクリーン越しではありますが、面会できるような取り組んでいました。面会時の患者さんやご家族さんの笑顔を見ると嬉しくなります。面会後に、沢山のご家族の方に「会えて安心しました」と言われていました。しかし、島根県内で新型コロナウイルスの感染拡大がみられたため、7月より面会はお断りさせてもらっています。面会ができないため、ご家族さんが来院された時には、患者さんの病棟での様子をお伝えして安心して頂けるようにしています。

当院の理念は「心の声を大事にします」とあります。患者さんご家族の思いを汲み取れる看護ができるように努力していきたいと思っています。

遊便第二十三号・もくじ

巻頭言	1
特集 重度認知症デイケア	2
雲陽の里 イベント	3
外来 予約制・問診	3
法人アクセス	4

発行元：
〒690-0033
松江市大庭町1460-3
医療法人仁風会 八雲病院
広報委員会
電話：0852-23-3456

重度認知症デイケアやくもの紹介

デイケアやくものは八雲病院第Ⅱ病棟（認知症病棟）に併設した医療保険の重度認知症デイケアです。

介護保険が始まる前より行っており、開設32年になります。デイケアやくものは認知症の方が通所し、心身の機能維持・回復を図ることが目的です。通所する為に、医師の指示が必要で医療保険の適応となることがデイサービスとは異なり、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士による診療とケアがおこなわれていることが特徴です。認知症に伴う周辺症状（興奮、徘徊、妄想）など医師の診療を受けながら必要であれば薬の処方などがなされ、また、症状が落ち着き生活リズムが整うまでの間の入院も可能です。加えて、介護保険との併用も可能です。

デイケアやくものは平成31年より共益費を廃止致しました。その為、月に何度利用されても

1000円（送迎費、昼食代も含む）のみの自己負担額となり、以前より多くの方に来ていただけるようになりました。しかし、近年新型コロナウイルスが猛威をふるい、デイケアやくもも当初は閉所や利用日の制限を設けたりと利用者の方にご迷惑をお掛けすることも多くありました。その後、施設の方と在宅の方の通所日を分けることや、プログラムを工夫する等の感染対策をとりながら現在は徐々にコロナ禍以前と同様にリハビリを提供させて頂けるようになりました。

プログラムは集団での活動や共同作業は感染リスクを考慮し、難しくなりました。その為、個人で行う作業が増えましたが、全員で個人のできる役割を分担し、工程を分けてひとつの作品をみんなで作り上げる創作活動や、各利用者の方が時にはスタッフと協力しながら

新たなことに挑戦するという取り組みが増えました。そういった中で自分の役割を持ち、完成した作品をお互い共有し賞賛し合うことによってやりがいを感じたり、楽しみに繋がり、コロナ禍ではありますが「来るのが楽しみ。楽しかった。」と前向きな感想をいただいています。物理的距離は離れていてもスタッフ含め個人個人が以前より密に関わられているような新鮮な感覚を味わわせて頂いています。

今日新型コロナウイルスも変異を重ね、初期の頃と比べると重症化しにくいと報じられています。しかし、それは健康な人を基準とした場合です。高齢者の方の重症化リスクが高いことは変わりありません。スタッフも感染対策を徹底し、緊張感を持って日常生活を送っています。早く自由な生活を送れる世の中が帰って来てほしいと心から願っています。

（デイケア 若槻祥明）



創作の畑作りに集中する利用者の方



全員で作ったカレンダー

法人内取組

認知症グループホーム雲陽の里

～春の外出行事のご報告～

雲陽の里では年間事業計画として春と秋、年2回の外出行事を予定しています。

新型コロナウイルス流行の影響を受け、令和2年以降は外出ではなくビデオ上映やお茶会等の振り替え行事となり、他科受診以外では施設外に出かける事のない状況が続いておりましたが、市内での感染状況を踏まえ法人内の感染予防委員とも相談して感染予防対策を講じ、5月26日に2年ぶりに全員で出かける事が出来ました。

行先は八雲日吉親水公園、意宇川の上にこいのぼ

りを揚げる期間中でした。担当職員と事前準備を進める中、週間天気では当日だけが雨という最悪の予報でしたが、皆さんと職員の願いが天に通じ、施設に戻るまで雨が降る事はありませんでした。短い時間でしたが、ゆったりと空を泳ぐこいのぼりを見ながら持参したジュースを飲み、離れたところで遊ぶ子供たちの姿に癒されたひと時でした。施設に戻り入居の方から何より嬉しいお褒めの言葉を頂きました。「楽しかった!」といつにも増して、良い笑顔で繰り返し話しておられました。

(雲陽の里 花田智恵子)



八雲日吉親水公園の鯉のぼり



東屋にてゆったりと休憩

外来

～予約制・問診について～

コロナ感染対策として外来は、令和2年3月下旬より予約制をスタートさせました。待合室の人数を10人までとする取組みです。間隔を空けて椅子に座って頂くよう印をついたり、受付される時も順番に並んでもらえる様に、床にテープを貼り付けたりしました。

当初は、予約をしていない方が来られたり、予約時間より早く来られたりして待合室が密になったりした時もありました。

予約制にした事で、次回の間診票、予約表等の説明をす

る事も多くなり、受付業務が複雑になったりもしましたが、その日に来られる人数を把握する事ができ、予定を立て易くなりました。

新規患者の方への対応も、予約制にした事によって午後からの受付となり、余裕を持って対応する事が出来る様になりました。

椅子、カウンターなどの消毒の徹底等、感染予防に努めています。患者の方にご理解、ご協力して頂きながらスタッフ一同、これからも感染対策に努めて参ります。(外来 今岡陽子)



玄関と外来待合室



わたくしたちは心の声を大事にします
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

医療法人 仁風会

○八雲病院 (外来診療時間午前中のみ受付時間)

平日8:30—12:30 / 土 8:30—11:30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話 (0852) 23-3456

F A X (0852) 23-3495

・デイケアたんぽぽ (精神科デイケア)

月曜日～金曜日 午前9:30—15:30

・デイケアやくも (重度認知症デイケア)

月曜日～金曜日 午前9:00—15:30

・八雲病院 居宅介護支援事業所

○コスモス (自立訓練【生活訓練】事業所)

松江市大庭町1459-1

電話 (0852) 23-3360

F A X (0852) 23-3370

○ビ・フレンドिंग (地域活動支援センター・相談支援事業所)

松江市大庭町1461-3

電話 (0852) 23-4111

F A X (0852) 23-4112

○雲陽の里 (認知症グループホーム・介護保険)

松江市大庭町1459-1

電話 (0852) 23-3700

F A X (0852) 23-3710

ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・ご感想などございましたら、是非下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会八雲病院、広報誌「遊便」共々よろしく願い致します。

(医)仁風会 八雲病院
広報委員会まで

表紙写真について

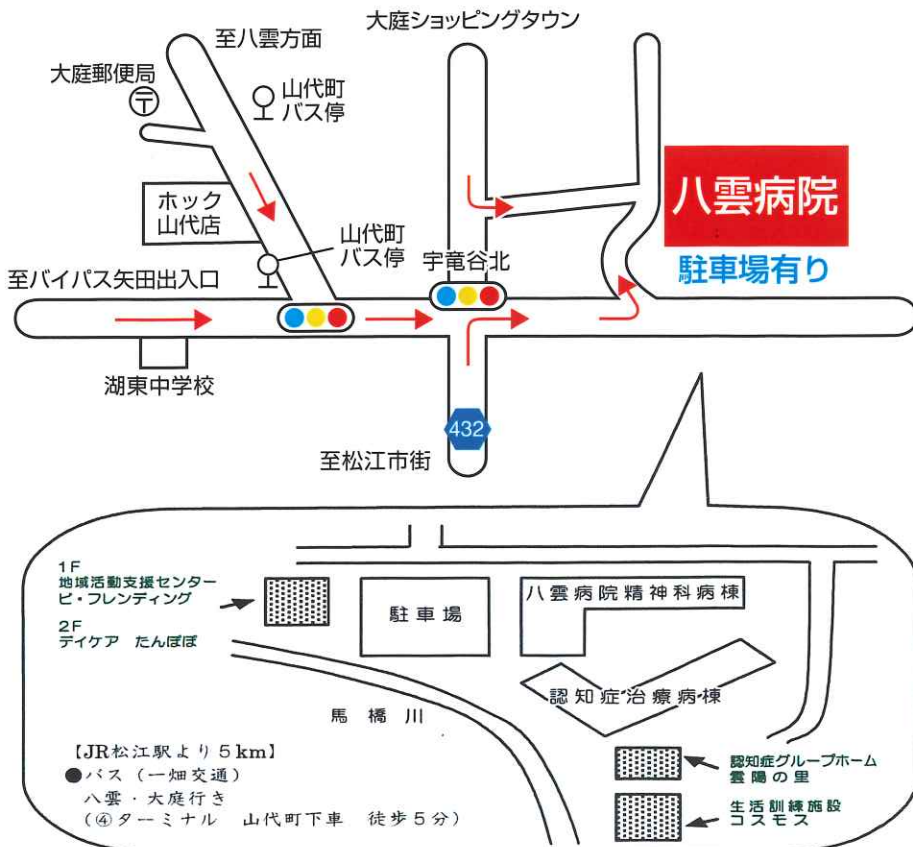
松江市佐草町にある八重垣神社の写真です。縁結びスポットとしても有名で境内の鏡の池には多くの方が訪れます。

お知らせ

ホームページのご案内

当法人の各種サービスについてホームページで紹介しております。スマートフォンにも対応しています。ぜひご覧ください。

アドレス <http://www.yakumohp.net/>



編集後記

「難しいことを優しく、優しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目な事を愉快に、そして愉快なことはあくまでも愉快に」この難儀なご時世に心を癒してくれるではありませんか。劇作家 井上ひさしさんの語録でした。今号もご覧いただきありがとうございます。

(小川 薫)